

軍隊建設特集：習近平は軍を完全に掌握できるか

漢和防務評論 20170131 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

習近平の軍事改革は、軍内の抵抗を排除しながら強引に進められているようです。
その狙いは、今年秋に開かれる予定の十九大の前に、徐と郭の余毒を排除することにあります。
いささか拙速に過ぎ、面白くない高級幹部は軍にとどまるよりも転職を希望しているとのことです。

平可夫

習近平は、軍幹部の大量抜擢、“反腐敗運動”による軍高級幹部の粛清、全軍の各種会議への常時参加、各種軍事演習の“直接指揮”、軍幹部の処遇の変更、等々の方式により、軍を完全に掌握しようとしている。また新たに抜擢した高級幹部を中央委員会メンバーに推した。これが十九大の前に習近平が行った軍に対する工作である。

2016 年、八一建軍節の前後、習近平は 50 名近い将軍を一度に抜擢した。これは鄧小平時代にもなかったことである。軍内の情報源によると：この主な理由は、徐才厚及び郭伯雄が抜擢した各種高級幹部を徹底的に排除するためであるようだ。新たに抜擢された高級幹部の多くは、“ロケット式急上昇”で昇任した。その主な理由は“全軍の師団長級幹部の三分の二以上が徐才厚及び郭伯雄時代に抜擢された者たちであり、現在、軍内で「徐」「郭」の余毒を徹底粛清中で、摘発、批判が大ブームになっているため”である。しかし、これらの幹部を排除した上で、徐才厚、郭伯雄に全く関係のない人物を選択するのは容易ではない。徐郭の両人は、15 年以上、軍の政務、軍務に就いていたからである。

相当権威ある情報源は：軍内部の問題は相当複雑である。派閥が林立し習近平の軍事改革に反発する力も強い。そのほか反腐敗運動が自分の身に降りかかるのを恐れ、高級幹部の士気は低下し、多くの人は引続き軍に留まることを望まず、軍事委員になることさえ忌避し、転職を希望している、と述べた。

” 習近平はこの問題を知っているのか？ ”

” 当然、知っている。最近彼は、軍の政治工作部で講話を行い、それを全軍に布告した ” と。

第一の問題は、当然「徐」「郭」の余毒排除の問題である。習は、軍内部に存在する十個の大問題を指摘した。第一の問題は、結党営私（注：徒党を組んで私利私欲を図ること）、任人唯親（注：縁故人事）であり、批判の矛先を徐郭時代に抜擢された軍人に向けた。しかし、たとえ軍の最高幹部といえども、多数が依然として徐郭時代の人である。

また習は、一部高級軍人の、以権謀私（注：権力で私を謀る）、瘋狂斂財（注：狂ったように財産を集める）、享樂主義、奢靡の風等、いわゆる”四風問題”を批判した。”四風問題”の肅正運動は軍内で抵抗を受けている。その理由は：師団級以上の幹部の多くは、標準の住宅が規定に従って支給され、それ自体は本来良いことであるが、江沢民時代から開始された多数の軍高級幹部の住宅及び公用車は、はるかに標準を超える贅沢なものであったためだ。誰を是正するのか？公平は図られるのか？これは現実の大問題である。

多くの軍幹部が軍改革に抵抗し、軍からの転職を希望している問題に対して、習近平は今回の講話で、これらの人々は信念に欠け、精神が定まっていないと批判した。軍の機関紙「解放軍報」は最近、”要動脖子以上”であると述べた。その実際の意味は、軍事委員会内部で軍事改革に抵抗するものは誰であろうと左遷させる、という意味である。

KDR は習近平が行った最近の軍内講話を分析した。その結果、十九大の前に、軍事委員会高級幹部に対し少なからぬ人事異動が行われる可能性があることがわかった。2017 年の十九大の前に、”徐郭の如何なる余毒も残さない”よう、すべての戦区、集団軍、師団級幹部が徹底して交代させられる可能性がある。

誰が軍改革に反対しているのか？軍改革に異見を持つ者は、信念に欠け、精神が定まっていないと断言できるのか？習のこのような追求の仕方に対して、抵抗する声が軍内にはある。軍のある戦略学者は：軍内部の多くの人、軍改革に徹底反対ではない。軍改革は、いかなる国家でも行われており、その具体的やり方、思想、スピードについては、それぞれの考え方が存在するだけである。それで”首を切られる”のか？”汚職”の罪名で肅清された多くの高級幹部も一部は軍改革の支持者であり、観点が異っただけである。例えば、高曉燕少将である。彼女は、早い時期から陸軍司令職位の設立を提案した人である。

”実際のところ、習近平の軍事に関する考え方は、その源泉は空軍出身の許其亮大将である。彼は、習近平の第一の腹心である”と。情報源はこのように述べた。しかし許其亮その人は、陸軍、海軍を知らない。したがってたとえ最上層のポストに就いて居ようとも、人の配置等の問題については、彼独自の考え方が反映される。ロシアの中国軍事問題研究者及び情報界は：”許其亮は、習近平に相当大きな影響を与える人物である”と述べている。

習近平は、江沢民、胡錦濤以来、最も頻繁に西山の総参謀部地下聯合作戦指揮

所に顔を出している。情報源はこのことを強調した。現在、この指揮所は、軍事委員会の一体化聯合作戦指揮センターに改められた。胡錦濤は在職中ここに数回しか来なかった。また江澤民は軍の政務に専念したためか、指揮作戦演習には直接顔を出さなかったという。

習近平は、”子供の時から軍隊が好きで、軍隊をよく知っている”ことを表明するため、現在、”聯合作戦総指揮”の職務を兼務している。これは公表されており、習は、軍令の最高責任者でもある。

ひょっとすると、許其亮が習に対してこのように報告したのかもしれない。習近平は、最近、政治工作部の内部会議で、軍に欠けている人材の問題について指摘した。彼は：我々は、聯合作戦の指揮員要員、すなわち聯合作戦に際し総合的な判断が出来る真に資質のある指揮員が欠けている。軍事委員会の聯合作戦指揮センター内部でさえも、聯合が理解できていない状況だ”と。

KDR は：この指摘は、基本的に正しいと思う。中国軍は、上層部であろうと、中層部であろうと、聯合作戦の指揮員要員が全く不足している。軍内委員会レベルには、真の意味での大学卒業生（高学歴）が存在しない。しかも、国防大学には、NATO 標準の聯合作戦の教学経験も課程もない。これが問題のカギである。現在、中將以上の中国軍高級将領は、絶大多數が文革時代を経験し、1990年代後期、21世紀初期、国防大学において指揮関連の学習を約1乃至2年経験している。これがこれらの人々の共通の教育的背景である。例えば、許其亮は、1966年、（文革第一年）軍に参加、学歴は、たった3回国防大学で学んだだけである。常万全は、通信制大学で学習し卒業。国防大学に進学。これが中国軍高級将領の典型である。

習近平は、同じ会議で、軍の人材のその他の問題についても談じた。総参謀部内部に建設されたばかりの戦略計画部署もまた人材が極めて不足している、と。中国軍は、最近になってやっと”戦略計画”の問題に注目するようになった。

軍事委員会は、2015年に6種の作戦戦力建設問題を提議した。この6種の作戦戦力の順序は：戦略早期警戒、軍事宇宙、対弾道ミサイル防空、戦略投送、遠海防衛等である。習近平は：軍は、この6種の作戦戦力の指揮員タイプの複合型人才が不足している、と述べた。

この6種の作戦戦力の組み合わせに注目してほしい。實際上、前から3種類は宇宙軍建設と関係がある。すなわち弾道ミサイルの早期警戒、衛星偵察、早期警戒である。弾道ミサイル防御等は、相当程度、ロシアの軍事学術界に係る”第6世代戦争”の影響を受けている。これらの人材養成は短期間で行うことはできないのではないかと？

以上